



田野畑村 ら 羅賀地区コミュニティセンター

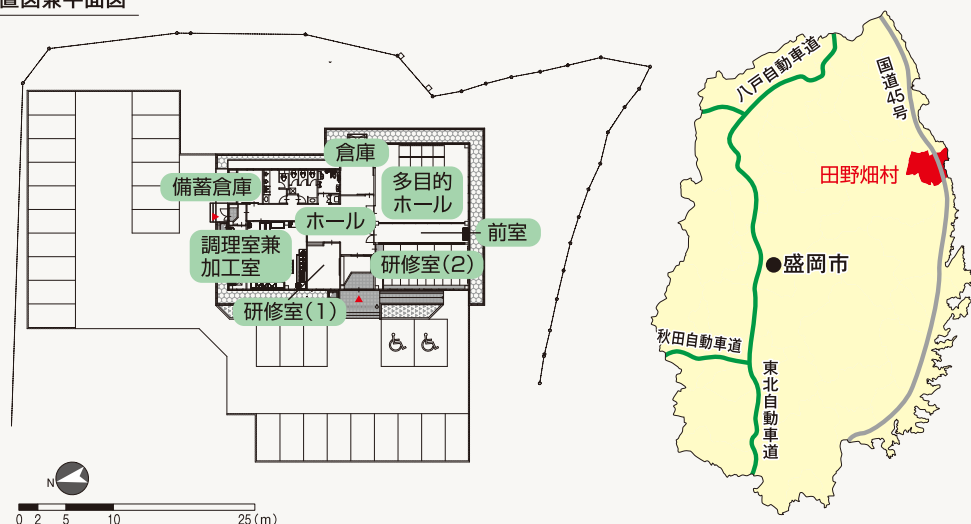
施工地／岩手県下閉伊郡田野畑村羅賀
192番地114
竣工年月／平成25年12月
敷地面積／1,304.41m²
延床面積／358.99m²
構造／鉄骨造平屋建

ふるさと漁村の再生に向けて

三陸復興国立公園の北部に位置し太平洋に面する岩手県下閉伊郡田野畑村は、北上山地から続くなだらかな山々が連なるのどかな風景や、標高約200mの大地が波打ち際に迫る「海のアルプス」とも呼ばれる豪壮な断崖の海岸線など、三陸ジオパークを代表する自然が織りなす優れた景観に恵まれる漁業と酪農業の村であります。

平成23年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災では、海岸部で約20mの津波が押し寄せ、多くの住宅や漁港施設が損壊し、伝統的な漁村景観を失うなど大きな被害を受けましたが、現在では高台移転による住宅再建や、新たな漁村の佇まいの創生に向けた復興のつち音が響きはじめております。

配置図兼平面図



快適環境の構築

被災した羅賀地域の復興のさきがけとしてその道しるべとなり、地域と共に歩むコミュニティの場として計画されました羅賀地区コミュニティセンターは、随所に木材を多用し自然素材が持つ温かみのある快適な空間づくりに努めました。ホールは廊下と一体化した空間とし、天井吹抜部のハイサイドライトにより自然光を取り込み、ゆとりと賑わいを生む交流の場として解放感を創り出しております。多目的ホールは利用形態に合わせた前室・研修室(2)の一体的利用に配慮し、可動間仕切りを設け天井の高い大空間として地域交流を支えます。



玄関



ホール



研修室(2)



調理兼加工室



多目的トイレ

避難所機能の強化

羅賀地域の災害拠点の役割を担う本施設は、災害緊急時の避難所機能を十分に果たす施設づくりに配慮し計画しました。建設地は東日本大震災の浸水を免れた場所ではありますが裏山からの土砂流入などに備え、腰壁を鉄筋コンクリート造(1.25m)とし安全性に配慮しました。停電時の対応として外部小型発電機からの電源が容易に使用できるよう施設内に専用のコンセントや防災電灯を設置、研修室(2)には灯油による暖房設備に加え調理室兼加工室のプロパンガスボンベからガス配管を敷設し、災害時の緊急暖房設備として利用が可能です。その他には非常用物資を保管する備蓄倉庫を配置、調理室兼加工室は地域の水産加工物の製造に加え災害時には避難者への食事や安らぎを提供することができます。



多目的ホール